

2024年度 学校関係者評価報告書

学校名：東海工業専門学校金山校

1 学校目標

- ・地域社会貢献のための新事業の検討
- ・教職員の意識、行動の更なる活性化
- ・目標、プロセスの見える化の推進
- ・経営の効率化
- ・広報力の強化
- ・国際化の取り組み

学校目標に対する評価・意見

- ・全体的に自校に対して厳しく評価をしており、学校目標に対して高く評価できる。
- ・しっかりとした学校目標を掲げ、先生方が一致団結されていると感じた。
- ・専門性を持たせ、資格取得や社会人教育へと尽力しているのが大変良く分かった。
- ・各種国家試験の合格率向上が大学との差別化となり高く評価できるとともに今後にも期待したい。
- ・起業した卒業生を招きセミナーの実施したことは、学生の職業意識、起業意識の向上となり評価できる。
- ・留学生の受入れに対して前向きにとりくんでおり、学習指導、生活指導など適切に対応がされている。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
(1) 教育理念・目標	3.8	3.8	3.8
(2) 学校運営	4.0	3.8	3.8
(3) 教育活動	3.8	3.8	3.8
(4) 学修成果	3.6	3.6	3.6
(5) 学生支援	3.6	3.6	3.6
(6) 教育環境	3.6	3.6	3.6
(7) 学生の受入れ募集	3.6	3.6	3.6
(8) 財務	3.6	3.8	3.8
(9) 法令等の遵守	3.8	3.8	3.8
(10) 社会貢献・地域貢献	3.4	3.2	3.2
(11) 国際交流	3.0	3.0	3.0

3 今後の改善意見

- ・重点項目となるビジョンを示し、それを実現すべき中長期の計画を策定する取り組みが必要である。
- ・建設分野で要求する人材像を明確にし各学科の科目内容を整備後、第三者評価制度への計画準備の推進が必要である。
- ・今年度より設置した一級建築士コースには大変魅力的であり、大いに期待している。
- ・多様な学生ニーズに対応するために、柔軟な教育アプローチや学習サポートを提供する必要があると思われる。
- ・教員の働き方改革による残業時間の問題から、授業後の補習には限界があるため、練習問題の電子化及びオンラインで可能となるシステムの構築が必要である。
- ・最先端の知識や技能を修得するための研修や教員の資質向上のための取り組みが継続的に必要である。
- ・退学者の防止について、面倒見の良い指導を継続していたと思われるが、今まで以上に担任に相談しやすい環境を作る必要がある。
- ・社会貢献・地域貢献の一環として、学生ボランティアをはじめ、地域に対する公開講座や教育訓練（資格取得講座）を積極的な取り組みは必要である。
- ・校友会各支部の取組みによる情報交換は積極的に進めることが必要である。
- ・国際化の取り組みについて、留学生の受け入れ態勢の整備も進んでいるようであるが、更に積極的に進める必要がある。
- ・夜間部のカリキュラム変更についての検討は、社会人の教育ニーズに合わせる形で再検討をして欲しい。

4 今後の具体的な改善方策

- ・各ビジョンの5年後の到達目標（学校目標）と2021年からの年度目標を作成した。その目標に則り今年度（2024年度）も着実に実施していきたい。
- ・教育課程編成委員会で継続的に企業ニーズをヒアリングし、カリキュラム編成やシラバスの検討に反映させる。
- ・退学率の低減のため、入学後早期の学生面談や教育懇談会（保護者会）を実施し、家庭と学校（担任）の情報交換がしやすい環境を引き続き構築する。
- ・全教員が広報担当となるため、誰が説明しても同じ品質で周知することができるように、広報資料をデータ化する。
- ・教員のスキルアップにおいては、情報化社会を迎えてBIM・CIM・建設ICT等の各種講習会に参加しやすい環境づくり（予算化・情報提供）を行い参加を促す。
- ・起業した卒業生を招き講話や懇談会を継続実施し、学生の職業意識、起業意識の向上を図る。
- ・すでに連携協定を締結している各県測量設計業協会・建設業協会での講習会をさらに発展させるとともに、リカレント講座や資格取得講座を計画し開講させる。
- ・ICT教育支援ツール『GLEXA』導入し資格試験対策として準備中であるが、授業資料への活用、オンライン講義へ発展させる。
- ・夜間部の通信制学科の設置のための研究を早急に実施する。